

問い合わせ先

和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目1番地

TEL 073-441-2530 FAX 073-432-5567



福祉の仕事を見つけるサイト

和歌山県福祉人材センター

〒640-8545 和歌山市手平二丁目1-2 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛7階

TEL 073-435-5211 FAX 073-435-5209



人を支える
お仕事いろいろ



夢や希望を支える 障害のある人の



障害福祉のおしごといいろいろ

高齢者の介護をすることだけが福祉のお仕事ではありません。
福祉の仕事にも多くの種類があり、その全てが私たちに必要なものです。

暮らすを支える

- 共同生活援助
- 施設入所支援

子どもの成長を支える

- 児童発達支援
- 放課後等デイサービス

働くを支える

- 就労継続支援A型
- 就労継続支援B型
- 就労移行支援
- 就労定着支援

日常生活を支える

- 居宅介護(ホームヘルプ)
- 移動支援(ガイドヘルプ)
- 短期入所(ショートステイ)

楽しみを見つける

- 生活介護
- 地域活動支援センター

悩みごとや色々な相談をする

- 相談支援



障害者支援施設
(施設入所支援+生活介護)
生活支援員
平田 和貴さん(32)

●実務経験／4年
●初任給／158,000円～
●自分の仕事を一言で言うと?
—「サポート」



平田さんが働く事業所
社会福祉法人 美熊野福祉会 杉の郷
新宮市熊野川町赤木1522-1

平田さんのある一日

出勤	
8:45	非番者による申し送り
10:00	午前活動開始（班別） バイタルチェック、 トイレ誘導、散歩、など
11:30	昼食介助
12:45	休憩
13:30	午後活動開始（班別）
14:15	午後活動終了
14:30	入浴
17:00	休憩
17:15	夕食介助
17:30	日勤帯勤務終了
帰宅	

Q1

福祉の仕事をしていて、
一番嬉しかったことは?



現在2人の利用者さんを担当させていただき、食事や身だしなみから班活動や入浴など、生活全般の介助を行っています。そのうちの1人のご家族さんがいらっしゃった時に、今年度も引き続き担当させていただくことを伝えて改めてご挨拶したところ「安心しました。担当さんが変わってしまったらどうしよう」と気になっていたんです。今年度もよろしくお願いします」と温かい言葉をいただいたことです。信頼をいただいているのを感じてすごく嬉しかったです。

Q2

福祉の仕事をしていて、
一番難しいと感じたことは?

杉の郷の利用者さんは重度の障害を持った方も多く生活されています。言葉でのコミュニケーションや意思疎通が難しいので、利用者さんの仕草や行動で訴えていることを素早く読み取り対応するのが理想的ですが、実際はなかなかすぐに読み取れないこともあります。経験を積むことでわかってくることも増えますが、全てを汲み取れているか不安もあります。そんな時に力になるのが他の職員さんの存在です。

支援は1人でできません。職員同士で声をかけあって情報交換しながら日々の支援が成り立っています。「これやっておいたらあの人が次に楽に仕事できるな」と考えたり、逆もアリで、お互い思いやりをもって接することでいい関係を築いています。



Q3

福祉の仕事をする上で、
心がけていることはありますか?

利用者の体調の変化ですね。特に僕が担当している班の利用者さんは言葉で訴えることが多いので、日々の様子を観察して、微細な変化にも気づけるよう注意しています。

また突然的なことが起こった際、焦って行動してしまうと失敗の元となるため、常に落ち着いて行動することも心がけていることです。



Q4

福祉の仕事に就きたいと思った
きっかけは何ですか?

福祉の仕事は今の職場から。もともとは保育士をしていました。子どもが好きだったことから保育士を志し、短大を卒業して大阪の保育所に勤めたんですが、保育は女性が中心の世界。もちろん男性保育士も増えてはいますが、思っていたイメージとのギャップを感じて1年で退職しました。

とはいって、その後の仕事を探すにあたって、保育士から全くかけ離れた仕事をすることはなかなかイメージできずにいました。そんな時に今勤めている社会福祉法人美熊野福祉会を紹介いただいたんです。

福祉であれば保育とも近い。しっかりと自分の働く姿もイメージすることができました。男性は男性の支援、女性は女性の支援を中心にしてるので、性別も関係ありません。ここで障害者支援に携わってみたいと思ったのが今の仕事に就いたきっかけです。

Q5

働く前に思っていたイメージと
現在のギャップがあれば教えてください。



福祉の仕事って忙しく拘束時間の長いイメージがあると思うんですが、実際には全くそんなことはありません。班で計画的に動くので時間に追われるような仕事はないですし、残業も少なく、有給もちゃんと取れています。趣味にも時間がかかるので、プライベートを充実させることでまた仕事のモチベーションに繋がっています。2人の子どもとの時間もしっかりと取れるのが嬉しいですね。



みんなからの
「ありがとう」が
私の原動力です!

地域活動支援センターI型
相談員
西 加奈子さん(26)

- 実務経験／2年3ヶ月
- 初任給／165,000円～
- 自分の仕事を一言で言うと?
—「オーダーメイドの支援」



西さんが働く事業所
社会福祉法人一麦会
麦の郷紀の川生活支援センター
紀の川市尾崎79-1
TEL. 0736-78-2808

西さんのある一日	
出勤	9:00 朝礼
10:00	活動開始 みんなでゲームや 創作活動をする
12:00	昼食
15:30	活動終了
16:00	事務作業
17:15	勤務終了 帰宅



Q1

福祉の仕事をしていて、
一番嬉しかったことは?



以前、利用者さんから夜眠れないと相談を受けたことがあります。眠りやすくなる方法を絵に描いてみたら、他のみんなが色を塗ってくれたんです。利用者と支援者がお互いを支え、支えられる関係であり続ける支援センターは、いつも「ありがとう」の言葉でいっぱい。しんどいことがあっても、その言葉に救われます。だからこそ支援センターはみんなが笑顔で集まる場所であり、私にとって大切な「居場所」なんです。

Q2

福祉の仕事をしていて、
一番難しいと感じたことは?

距離感の測り方ですね。一人ひとりの性格や思い、生活状況を把握しながら支援していくと、どうしても距離が近くなってしまいます。利用者さんが感情を表に出してくれているということは関係性ができているということですが、その感情に振り回されることは、適切な判断ができず支援も正しくできなくなります。どのケースに対しても、個人で動くのではなく、他機関との連携実践を大切にすることが大事です。

日々意識しているのは支援員の主觀を押し付けるのではなく、本人の気持ちをしっかりと聞き、受け止めたうえで自己決定支援ができる事。個別の相談に入る時には、本人が運転手、支援者は助手席に乗るような感覚で、いろんな出来事を一緒に乗り越えていくことを心がけています。

Q3

福祉の仕事をする上で、
心がけていることはありますか?

楽しい気持ちは伝播します。ボードゲーム、バドミントン、工作、何をするにしてもまずは自分が率先して楽しむことにしています。気分が落ち込んでいても、一緒に活動するうちに「楽しい気持ちは伝わって少しでも気持ちが楽になってほしい。だからいつも「元気であること」「自分が楽しむこと」で雰囲気を明るくするよう心がけています。



Q4

福祉の仕事に就きたいと思った
きっかけは何ですか?

高校生の頃に「子どもをサポートする仕事に就きたい」と考えるようになりました。社会福祉士の資格が取れる大学に進みました。でも実習段階で想像とのギャップを感じ、児童養護施設で働く気持ちは薄れてしまったんです。そんな時に出会ったのが精神保健福祉の授業で訪れた紀の川生活支援センター（以下、センター）でした。この時に利用者・支援者を感じさせないお互いを支え合うような温かさを感じ、「福祉現場でこんな雰囲気じたことがない」と驚いたのを覚えています。

実習でもセンターで15日間お世話になり、利用者さんとの温かいやり取りや笑顔あふれる毎日がとても楽しく、「福祉現場で働くのであれば、まずはここがいい！」と決意。私が就職する年は職員募集がなかったため、精神保健福祉士の国家試験の受験勉強をしながら職員募集が始まるのを待ちました。

Q5

働く前に思っていたイメージと
現在のギャップがあれば教えてください。



実際に働き始めると、実習生の頃とは責任感が違います。制度のことなど知らない自分と違う人の生活に深く入るのは、縦引きがない分難しい。一人ひとりの個性や特性があるため、決められたルールはありません。AさんはAさんに対応したルールがあり、Bさんはまた違うBさんのルールがあります。だからこそ、オーダーメイドの支援が必要。そのためにも障害の特性をもっと勉強していきたいです。





障害者支援施設
生活支援員
(施設入所支援+生活介護)
溝上 あゆみさん(30)

- 実務経験／12年
- 初任給／215,000円(高卒一年目)
- 自分の仕事を一言で言うと?
—「利用者さんの笑顔が見られる仕事」



溝上さんが働く事業所

社会福祉法人 ゆたか会 リハビリ橋本
橋本市柱本22
TEL. 0736-37-5800

溝上さんのある一日

早番の場合	出勤
8:45	朝礼
9:45	利用者ミーティング
10:05	午前作業開始
11:30	昼食介助
12:45	休憩
13:30	午後日課開始
15:00	午後日課終了
15:30	入浴
16:00	夕食介助／洗面
17:00	排泄介助
	帰宅

Q1

福祉の仕事をしていて、一番辛かったことは?



介護には大変というイメージが付き物ですが、実際に介護職に携わると大変さよりも「もっと知りたい」「もっとこんな介護がしたい」と思うようになるので、少し世間のイメージとは違うかもしれません。
とはいっても、命を預かる職種。体調不良者が多い時は毎回手に汗を握ります。職員みんなで対応に当たりますが、急変することもあり、一緒に生活していた利用者が病気になって施設に戻ってこられなくなった時は辛かったです。

利用者さんも職員も

みんなで一つの「大きな家族」。

利用者さんも職員も

みんなで一つの「大きな家族」。

Q2

福祉の仕事をしていて、一番難しいと感じたことは?



Q3

福祉の仕事をする上で、心がけていることはありますか?

「初心を忘れないこと」と「笑顔」、そして「コミュニケーション」ですね。利用者さんに安心して日々を過ごしてもらうため、何気ない会話を通じて一人ひとりの想いに寄り添えるよう心がけています。また職員同士の報告・連絡・相談も大事です。入職した時から親切に教えてもらったことは今後後輩ができても伝えていきたいなと思っています。



Q4

福祉の仕事に就きたいと思ったきっかけは何ですか?



この仕事がしたい!と強く希望していたわけではなく、漠然と何か人の役に立つ仕事がしたいなと思っていたんです。当時高校生だった私の中で人の役に立てる仕事ってなんだろう?と考えた結果、最初に浮かんだのが介護でした。就職説明会でリハビリ橋本に会って、その後見学もさせてもらい、ここで働きたい!と思うようになりました。

そんな風に「役に立ちたい」の想いだけで入職したので最初は何もわからず戸惑いましたが、利用者さんから「ばっちはらやればいいよ」と声をかけてもらって肩の力が抜けました。利用者さんはみんな明るいし、職員さんたちも親切で、わからないことがあれば聞き、話し合いながら協力しています。みんなで一つの「大きな家族」という感じ。家では4人家族ですが、職場では100人以上の家族ができる、毎日充実しています。

Q5

働く前に思っていたイメージと現在のギャップがあれば教えてください。



働くまでは、人の役に立ちたい、何かお手伝いをしたいという風に思っていたのですが、実際には私たち職員が利用者さんの身の回りのこと全てをお手伝いするのではありません。利用者さんがご自身できることは時間がかかるでもやってもらうことが自信に繋がり、次のステップへ繋がることを知りました。それを見守りながら、サポートしていくのが私たちの役目です。



「来たくなる」「来てよかつた」と
思ってもらえるように。



嶋田さんのある一日

就労継続支援B型
支援員
嶋田 晃樹さん(30)

- 実務経験 / 6年
- 初任給 / 150,000円
- 自分の仕事を一言で言うと?
—「支援員」



嶋田さんが働く事業所

社会福祉法人 有田つくし福祉会
つくし共同作業所
有田郡湯浅町柄原187-1
TEL. 0737-64-1866

出勤	
9:45	朝の会
11:00	午前作業開始
11:15	午前休憩
12:00	給食
13:15	午後作業開始
14:15	休憩
15:15	掃除
15:30	終わりの会
15:45	送迎開始
	帰宅

Q1

福祉の仕事をしていて、一番嬉しかったことは?



パンの訪問販売時、電卓を打って計算してもらったり、パンの袋詰めをしてもらっているんですけど、できなかつた仕事が日々やっているうちにできるようになっていくんです。売れたパンの暗算ができるようになった時や、内職でできることが増えたり、こちらから声をかけずとも自分から動けるようになった姿を見ると、成長を感じて嬉しくなります。



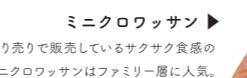
Q2

福祉の仕事をしていて、一番難しいと感じたことは?



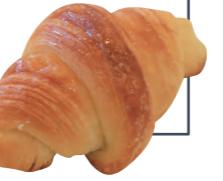
やはりコミュニケーションがうまく通じない時ですね。利用者が何かを訴えているのに、それをうまく汲み取ることができない時は歯がゆさを感じます。そんな時は本人が何を伝えたいのか、その場の状況を見て予想を立てながら探るのですが、自分で力が及ばない場合は先輩職員や保護者さんの話を聞くなどして原因やヒントを探します。

また、それとは別で課題に感じていることは、利用者の工賃の問題です。パンの訪問販売は役場や学校関係、会社さんなどに決まったスケジュールでお伺いしていました。コロナの中でFAXでの注文が中心になり、現場での袋詰めや計算がなくなったため、利用者さんにやってもらえることが減ってしまいました。しばらくこのままであれば、違う形で工賃を確保する必要を感じています。



Q4

福祉の仕事に就きたいと思ったきっかけは何ですか?

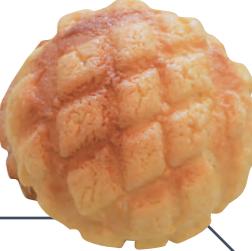


弟が知的障害を持っていたので、一緒に過ごすうちに自分の仕事として障害のある方たちの力になれることがないのかなと考えるようになりました。その時はどういった職場や職種があるのかわかっていないかったんですが、調べるうちに作業所の存在を知り、有田つくし福祉会に入らせてもらうことになりました。実は弟も法人内の農園で働いているんです。

最初は就労継続支援B型の作業所に赴任して、途中2年間は生活介護の事業所に移っていたのですが、またB型に戻って内職とパンの販売を担当するようになりました。利用者はいろんな人がいます。それまでは弟以外に障害のある人と接する機会は少なかったのですが、たくさんの利用者さんと過ごす経験の中で、コミュニケーションの取り方などを学び、弟との対話にも活かすことができています。

Q3

福祉の仕事をする上で、心がけていることはありますか?



つくし共同作業所の合言葉である「利用者さんが来たくなる、来てよかったと思える作業所」を目指して、いつもこの言葉を思いながら仕事をしています。

利用者さんが仕事に対して「楽しい」「行きたい」という気持ちになるには、やはり達成感は重要です。自力でできることを少しづつ増やして自信をつけることで楽しさを感じてもらえるようサポートしています。

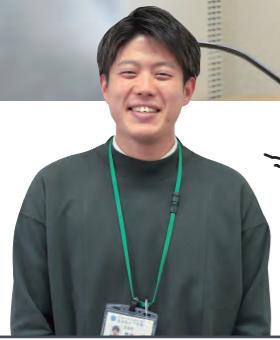


Q5

働く前に思っていたイメージと現在のギャップがあれば教えてください。



正直、最初は障害のある利用者さんとうまくコミュニケーションが取れるか不安に思っていました。弟との生活の中でもトラブルがあるため、他人である利用者さんたちとうまくやっているだろうかと。でもいざ働いてみると、みんなとても明るく純粋な方たちばかりで、積極的に話しかけてくれたり、こちらが困っていると逆に気にかけてくれたりもしたので、すぐに不安はなくなりました。



**障害者支援施設
(施設入所支援+生活介護)**
生活支援員
竹中 健さん(28)

- 実務経験／5年
- 初任給／177,500円
- 自分の仕事を一言で言うと?
—「その人の幸せとは何か?
を追求するお手伝い」



竹中さんが働く事業所
和歌山県福祉事業団
由良あかつき園B棟
日高郡由良町吹井
TEL. 0736-37-5800

竹中さんのある一日

出勤	
8:50	朝礼
10:00	朝食、掃除、身支度支援
11:00	グループ別午前活動開始
11:45	午前活動終了
12:30	昼食支援
13:30	休憩
13:40	昼礼
14:00	グループ別午後活動開始
15:00	入浴支援 or 活動継続
15:30	午後活動終了
16:30	記録
16:45	個別支援
17:30	終礼
16:45	夕食支援
17:30	退勤
	帰宅

Q1

福祉の仕事をしていて、一番辛かったことは?



死は誰しも迎えるものだと理解していますが、担当する利用者さんが病気で亡くなった時の悲しさは今も忘れられませんし、その経験が僕のモチベーションにもなっています。当時僕はまだ1年目で未熟だったので、その人のためにもっとできることがあったんじゃないかと悩んだりもしましたが、利用者さん一人ひとりを取り巻く状況や環境を考え、人生の最期を迎える支えになりたい、楽しかったと思ってもらいたいと考えるようになりました。



施設で作られている陶芸作品 ▶
一つ一つ手作りされた陶芸は、それぞれに温かみと個性がある。購入も可能です。

Q2

福祉の仕事をしていて、一番難しいと感じたことは?

シンプルに「伝わらない」「わからない」といったコミュニケーションの部分です。僕の担当する利用者さんは基本的に言語を苦手とする方たち。みなさん言語以外のさまざまな行動でいろんなことを伝えてくれるので、その行動から伝えたいことが何なのかを推測し、サービスを提供するのですが、正直まだわからないことが多いのが現状です。人それぞれの学習の仕方、表現の仕方があり、理解できるものを応用しながら個々にあわせた支援が必要になってきます。

その人にあった支援を追求することがこの仕事のやりがいであると同時に、難しい点。「那人らしく生きる」という当たり前の権利を守りたいという思いはありますが、追求すればするほど難しい。でも、そういった自分の権利を伝えられない人たちの代弁者になればなれどと思います。

施設で作られている陶芸作品 ▶

施設内の作品倉庫の中で一際目を引いた丸皿。青の縞模様が素敵です。



Q3

福祉の仕事をする上で、心がけていることはありますか?

利用者さんとの関わりも職員同士の連携も、ベースに「楽しさ」が必要。その共有が成長に繋がると思っています。以前は自分が感じる楽しさをうまく共有できずに空回っていました。でも「人のために」ではなく「とともに」という福祉本来の在り方を知ってから徐々に言動が変わってきたのか、周りとのコミュニケーションもうまく取れるようになりました。



Q4

福祉の仕事に就きたいと思ったきっかけは何ですか?

小さい頃から野球をしていたんですが、高3の夏に骨折してプレーヤーとしてはマウンドに立てなくなりました。でも大学時代にバッティングセンターで野球スクールのコーチにスカウトされたんです。そこで一生懸命取り組む子どもをサポートし、保護者の思いを聞くといった経験を通じて、対人関係の仕事に就きたいと強く思うようになりました。もともと教育か福祉の分野への進路を見据えて社会福祉を専攻していたのもあり自然と道が固りました。子どもの頃からチームで何かを取り組む楽しさにやりがいを感じていたこと、偶然コーチに誘われたことが繋がっていると思うと、不思議なご縁ですね。それでも実際に大学で福祉を学ぶうちに、自分の知っている「福祉」の幅の狭さに気づかされました。振り返ると「これも福祉なんだ」と言う気付きが多く、何も知らなかったなと。今もまだ勉強の日々。多様な福祉があると知ったこと、その奥深さに惹かれたことも今の仕事に繋がっていると思います。

Q5

働く前に思っていたイメージと現在のギャップがあれば教えてください。



僕もそうでしたが、福祉=高齢=介護と思っている人は多いんじゃないでしょうか? また3K※の悪印象が定着している現実もあります。でも実際はそれはほんの一面。福祉は「個々の幸せの追求」です。人の困りごとに寄り添い続けることは簡単ではないし、うまくいかないことが多いですが、利用者さんが自分らしく生きられるように社会的障壁や困難をともに乗り越えるのが僕たちの役割だと思います。

※3K=きつい、汚い、危険

特別な存在として。

親でも友達でも学校の先生でもない



自分の中の
どんな経験も
生かせる仕事です



放課後等デイサービス

児童指導員

杉岡 一樹さん(24)

●実務経験／5年

●初任給／160,000円～

●自分の仕事を一言で言うと?
—「ありのままの関係づくり」



杉岡さんが働く事業所

社会福祉法人 ふたば福祉会 かへた

田辺市上秋津1368-3

TEL. 0739-33-9585

杉岡さんのある一日

出勤
9:15 朝ミーティング
9:40 送迎
10:15 午前活動
12:00 昼食
12:30 休憩
13:30 午後活動
16:30 送迎
17:15 タミーティング
18:00 勤務終了
帰宅

Q1

福祉の仕事をしていて、
一番嬉しかったことは?



僕たちが関わるのはコミュニケーションを取るのが苦手で、閉じこもりがちな子供たち。当然最初は心を開いてくれませんでしたが、日々少しづつ距離を縮めました。中でも嬉しかったのは名前で呼んでもらえた時。名前を呼ぶって、何かを伝えたり相談したかったりする時じゃないですか。それって信頼の証。心を開いてくれてきたのを感じるし、僕自身を必要としてくれているのが嬉しい。これからも子供たちの日々変化する表情をそばで見守りたいです。

Q2

福祉の仕事をしていて、
一番難しいと感じたことは?

当たり前の事ですが、子供たちは一人ひとり考え方も感じ方も違います。何で悩んでいるのか、どうしたいのか、どうなりたいのかに気づいてあげるのが難しいところです。以前は小学生ばかりの事業所にいたんですが、異動して今は中高生も来られます。小学生は怒っててもかわいいなという感じでしたが、さすがに中高生となるとそうはいかない。悩みの種類が小学生とはまた違い、学校の友達とのコミュニケーションや親との関係、恋愛ごとも出てくる。そこにどう寄り添えるか。でも結局その歳なりのかわいさがあるし、「ありのまま」で接すればいいんですね。僕と歳も近くなるので、逆に僕もありのままの自分でいるのかなと思うことがあります。いつも子供たちに突っ込まれてばかりで、僕自身もまだ子供。一緒に成長している感じです。

Q3

福祉の仕事をする上で、
心がけていることはありますか?

どんな会話も、それ違うやろってことも、1回寄り添って、何が違うのか一緒に考えていくように心がけています。心を開いてもらうには僕の中でコツがあって、「憑依させる」。相手の年齢と同じ頃の自分を想像して接するんです。小学生と接する時は本当に小学生の気分になる。本気で悔しがったり喜んだり、共感します。全力ですね。



Q4

福祉の仕事に就きたいと思った
きっかけは何ですか?

母が同じ法人内で仕事をしているんです。その姿を子供の頃から見ていたので、僕の中で「福祉」はずっと身近な存在でした。小学生の頃に参加したバザーや行事がすごく印象に残っているんですが、そこで一生懸命働く利用者さんやスタッフさんがキラキラして見えたんです。進路を考えるようになった時、そのことを思い出して、僕もそのキラキラになりたいなと思ったのがきっかけです。実際に働いてみると、想像していた以上に子供たちもスタッフもアットホーム。ボードゲームをしたり、近くの神社や前の川で鬼ごっこやカニ釣りをしたり。施設の庭でもカメやメダカを飼っています。子供たちと無邪気に走り回って遊ぶのも楽しいし、悩みごとを相談してくれるのも嬉しい。だから、今はきっと自分もキラキラできているんじゃないかなと思っています。

Q5

働く前に思っていたイメージと
現在のギャップがあれば教えてください。

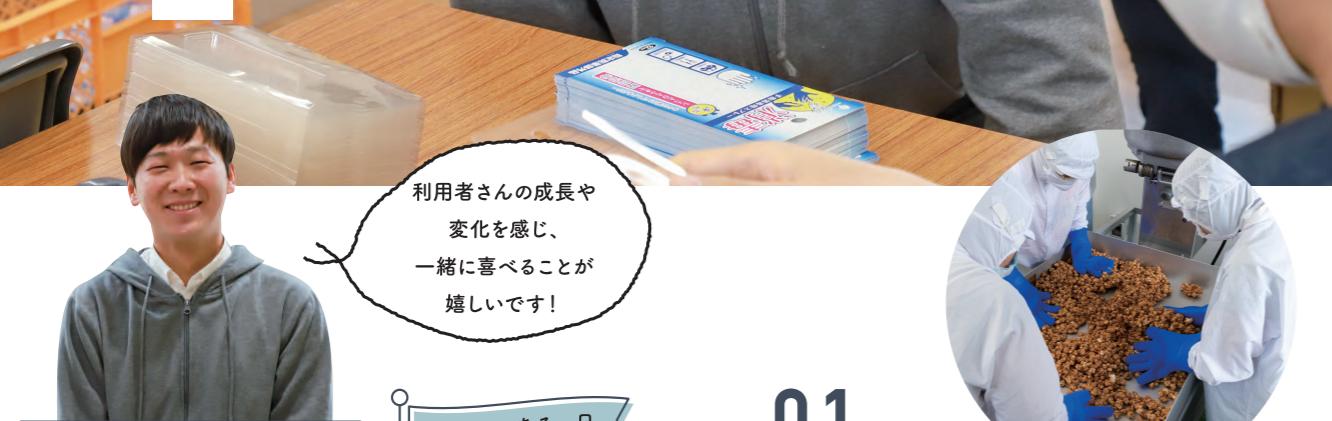


働く前は、うまくコミュニケーションが取れるか不安でした。でも実際働き始めると、コミュニケーション取るには言葉だけでなくジェスチャーや表情といったたくさんの方法があるということに気づきました。今はあまり難しく考えず、ありのまま、自然体の自分で関わることができるようになりました。そんな風に自分が変わることで、子供たちのありのままの姿にも触れることができている気がしています。



一緒に問題を乗り越える

一番の戦友でありたい。



就労継続支援B型
サービス管理責任者
旭 淳志さん(30)

- 実務経験／精神科病院を経て3年
- 初任給／200,000円(大卒一年目)
- 自分の仕事を一言で言うと?
—「協働」



旭さんが働く事業所

社会福祉法人一峰会 あすの実
海南省阪井488-1
TEL. 073-499-6396

旭さんのある一日

出勤	
8:30	職員ミーティング
9:20	利用者ミーティング
9:30	午前作業開始 利用者さんと作業、相談業務、 関係機関連絡調整、個別 支援計画やモニタリング作成
12:00	昼食
12:45	所内清掃(利用者と一緒に)
13:00	午後作業開始 利用者さんと作業、相談業務、 関係機関連絡調整、個別 支援計画やモニタリング作成
15:30	作業終了 記録作成、関係機関連絡調整、 個別支援計画やモニタリング作成
17:00	職員ミーティング
17:30	勤務終了
帰宅	

Q1

福祉の仕事をしていて、
一番辛かったことは?



うまく支援に繋がらず、離れてしまう人もいます。次のステップに向けて別のサービスや居場所に繋がるのであればよいのですが、現実はそのようなことばかりではありません。支援が軌道に乗らず、離れていく方たちのことを考えると、あの時もっとこうできたんじゃないかと悔やまれます。そんな時のモチベーションの上げ方は同業の人と話をすること。外部との繋がりも大事にしているので、適度に吐き出して気持ちを切り替えるようにしています。

PAI PIPIPE! POPCORN ▶

カラフルでかわいいポップコーンには
寺尾牧場の牛乳やまりひめいちご、
有田みかんなど和歌山の素材がぎっしり!



Q2

福祉の仕事をしていて、
一番難しいと感じたことは?



人それぞれに支援の形があって、正解はありません。マニュアルはあってないようなもの。経験と、日頃どれだけ利用者さん本人のことを見て、聞いて、情報をキャッチしているかに尽きると思います。正直、いいことばかりじゃなく、しんどいことの方が多いかもしれません。利用者さんの想いに寄り添いながら一緒に話し合いを重ねていく中で、利用者さんの希望と現実の間に挟まれ葛藤することがあります。時にはこちらの想いが伝わらず、上手く関係が築けない時もあります。でも関わるうちに変化が生まれ、ありがとうと言ってもらえるようになります。一緒に課題を乗り越える瞬間に関わられた時の感動は言い表せないほど。僕にとって利用者さんはある意味戦友だと思います。

Q3

福祉の仕事をする上で、
心がけていることはありますか?

一人ひとりの話を丁寧に聴くこと。福祉の仕事は人の話を聞くことから始まると思います。中には本心を言えない人や、会話が困難な人もいます。障害の程度に関わらず、その人が何を考えているのか、何を希望しているのか、どうすればその想いを汲み取れるのか。それを考えて実践していくためにも自分自身のスキルアップが必要だと思っています。



Q4

福祉の仕事に就きたいと思った
きっかけは何ですか?

高校生の頃に将来の仕事を考える機会があったのですが、どうにも会社勤めのイメージができませんでした。じゃあ何かしたいかと考えたら、困っている人をサポートしたいと思うようになったんです。それがきっかけで福祉系の大学に進学。中でも精神科病院の実習で長期入院者の現状を知ってからは精神保健福祉分野で働きたいと思うようになりました。卒業して最初の5年間は病院で精神障害の人の支援に携わりました。

その後退職して地元海南に帰ってきた時、それまでの経験を生かして地域に貢献できることがないかと考えた結果、一峰会にたどり着きました。一峰会のいいところは、提案したことが必要となれば背中を押してもらえるフットワークの軽さ。県内で精神障害者を対象としたフットサルチームがないことから提案したところ、すぐに認めてもらいました。おかげで他法人との交流会を開くことができ、利用者さんにも喜んでもらえました。

Q5

働く前に思っていたイメージと
現在のギャップがあれば教えてください。



高校生の頃は、福祉と言っても「困っている人の支援をする」という漠然としたイメージしかありませんでした。でも実際働くと、利用者さん一人ひとりの人生のターニングポイントに関わることも多く、私たち支援者の言葉一つで人生を大きく変えることもある重要な仕事なんだ気づきました。だからこそ、丁寧に話を聞きながらその人にあったペースでサポートすることを日々自分に言い聞かせています。



共同生活援助(グループホーム)
生活支援員
栗本 真実さん(25)

- 実務経験／8年
- 初任給／209,510円
- 自分の仕事を一言で言うと?
—「毎日を楽しくするもの」



栗本さんが働く事業所

(有)和歌山サンクリーン
グループホームさくらの家
和歌山市市小路30-1

栗本さんのある一日

遅番の場合	
出勤	
11:00	作業所ヘルプ ヘルパーへルプ
休憩	
15:00	夕食準備 迎え入れ
16:00	ミーティング
17:00	夕食
18:00	入浴支援 服薬支援
21:00	終了
	帰宅

Q1

福祉の仕事をしていて、一番辛かったことは?



自分より年上の利用者さんもいらっしゃるので「子どものくせに」と話を聞いてもらえないかったり、利用者さんに「お金取ったやろ」「影で悪口言ってるやろ」としてもないことを見られたことですね。どう弁解しても信じてもらえないのは辛い。時にそんな風に理不尽なこともありますが、そんな時はとにかくたくさん食べてたくさん寝るに限ります。しないこともありますが、楽しいが上回って、いつの間にか忘れていることがほとんどです。

Q2

福祉の仕事をしていて、一番難しいと感じたことは?



Q3

福祉の仕事をする上で、心がけていることはありますか?

仕事に行きたくないという方がいれば、自分が学校に行きたくないと行った時にお母さんがどうしてくれたかを思い出します。利用者さんはみんなどこかかわいらしいところがあって、腹の立つことがあっても憎めない、家族みたいな感覚です。大家族の中で「お母さん」はおこがましいけれど、いるだけで安心できる「みんなのお姉さん」になれば。



Q4

福祉の仕事に就きたいと思ったきっかけは何ですか?

中学の時に父がこの事業所を立ち上げたんです。そこで高校からグループホームの生活支援員としてアルバイトしたのがきっかけ。最初はバイトというより手伝いの感覚で、就職するつもりは特にありませんでしたが、気づいたら就職していました。

仕事内容は朝、利用者さんを起こしたり、食事の準備をしたり、一緒にお喋りやテレビを楽しんだり。朝食と夕食はホームごとに一緒に食べる所以、様子を見ながら会話するんですが、今日あったことを聞くだけでも楽しいですし、利用者さんができなかったことがどんどんできるようになると嬉しい。それを見守っていくのがやりがいですね。時には作業所での稼ぎからお土産を買ってきてくれたり、折り紙やディサービスで作ってきたものをくれたりもします。そんな風に一生懸命日頃の感謝を伝えてくれた時は嬉しさもひとしお。だから、毎日本当に楽しくて、今できていないのはネイルぐらい。他はやりたいことができます。

Q5

働く前に思っていたイメージと現在のギャップがあれば教えてください。



自分が経験するまで福祉にはお年寄りのイメージがありましたね。おむつ交換などのイメージも強くありました。でも働く前に思っていたことは働くとすぐに慣れます。それよりも、毎日想像以上の出来事が起るんです。日々飽きないぐらいトラブルだらけ!でも「今日は何があるかな」という感覚で楽しんでいます。



宮本さんのある一日

障害者就労継続支援

A型事業所

支援員

宮本 暁恵さん(40)

●実務経験／15年3ヶ月

※ララロカレさんでは3年

●初任給／110,000円

●自分の仕事を一言で言うと？

—「ビタミン」



宮本さんが働く事業所

NPO法人かたつむりの会
ララ・ロカレ

田辺市上屋敷町二丁目6-7
TEL. 0739-34-2146

出勤	
8:30	開店準備
9:00	営業開始
10:00	朝礼
11:00	ランチタイム開始
	利用者さんの様子を見ながら一緒に接客
休憩	
14:30	ランチタイム終了
片付け	
15:30	勤務終了
帰宅	

Q1 福祉の仕事をしていて、一番辛かったことは？



利用者の気持ちが最後まで分かりきれなかった時ですね。突然休んで引きこもったり、そのまま退所したりする場合もあります。本人にはちゃんと理由があるんですけど、それが分からないことが歯痒く、自分にできることの少なさを日々痛感しています。こちらに勤めて3年が経ちますが、まだまだ自分自身が毎日必死。早く先輩方や理事長のように的確なアドバイスやサポートができるようにならなと思っています。



人気のランチセット▶

食材は、なるべく和歌山県内や近隣の県のものを使い、人と人とのつながりを大切に考えたメニューづくりをしています。

Q2

福祉の仕事をしていて、一番難しいと感じたことは？



距離感の測り方が難しい。利用者はその日その日の精神状態によって心を閉ざしてしまったり、感情的になってしまったりします。私たちがその場の感情に流されてしまうと本人にとって良い支援ができなくなるため、こちらの考えを押し付けるのではなく、本人の気持ちを聞き、しっかりと受け止めた上で一緒に乗り越えていけるよう努めています。例えば、言葉掛けや態度ひとつ取っても気をつけなければいけません。以前、何気ない一言で怒らせてしまったことがあるため、今は声をかける際もワンテンポおくようにしています。

A型施設なので、ここから一般就労に繋げるのが目標。一般就労は本人にとって不安も多い中、次に繋がった人がいると本当に嬉しいですね。スポーツに例えると、利用者は選手で、私たちがサポーター。そんな感覚で一つ一つの出来事に向き合っていきたいです。

Q4

福祉の仕事に就きたいと思ったきっかけは何ですか？

Q3

福祉の仕事をする上で、心がけていることはありますか？

私は気持ちが表情に出やすく、忙しいと目が真剣になって「怖いよ」と言われがち。お店が混んできた時ほどマスクの中で深呼吸して、利用者さんに「もしかしたら私怖くなるかもよ」と申告しています。でも、自分自身が楽しくあることが一番。敏感な方が多い中、空気を変えないよう自分自身が元気で、気持ちを穏やかにできるよう心がけています。



Q5

働く前に思っていたイメージと現在のギャップがあれば教えてください。



以前が高齢者施設にいたため、考え方も違うし、みなさん元気。前職では「してあげよう」と思っていたけれど、障害者の場合はしてあげることがなくて、教えてもらうことばかり。一緒に働く中では利用者たちの方が先輩なので細かいことに気づいてくれるんです。特に私は接客業が未経験。店にお客として来ていた時は「頑張ってるな」「楽しそうだな」と見えていたのがこんなに大変だと。そういう意味では本当にイメージが変わりました。

頼つてもらえる存在になりたい。

地域で子供の困りごとがあれば



療育に必要なのは
臨機応変さ!

児童発達支援事業所
保育所等訪問支援事業所
機能訓練担当職員 訪問支援員
前嶋 康平さん(25)

- 実務経験／1年
- 初任給／210,000円
- 自分の仕事を一言で言うと?
—「みんなのお父さん」



前嶋さんが働く事業所

社会福祉法人ふたば福祉会

通園ありんこ

田辺市芳養町3216-19

TEL. 0739-25-5539

前嶋さんのある一日

出勤	
8:50	ミーティング
9:00	児童登園開始 自由遊び
10:30	片付け 排泄 手洗い 朝の会
11:30	給食
12:30	午睡準備
13:00	午睡
14:00	排泄 着替え おやつ お楽しみ
14:45	降園準備 帰りの会
15:00	降園 掃除 記録物の記入
17:15	勤務終了
帰宅	

Q1

福祉の仕事をしていて、
一番辛かったことは?



発達課題のあるお子さんの保護者との関わりは、日々の悩みの一つです。自分の子供に特性があるかどうか以前に結婚も子育ても経験がない中で、本当の意味で理解できているのか。エゴや理解しているつもりになっていないか、日々葛藤しています。でも、そんな中でも子供たちは長い期間で必ずできることが増えています。その成長を見る度、保護者の方々と一緒に喜びを共有できることは嬉しいですね。



Q2

福祉の仕事をしていて、
一番難しいと感じたことは?



障害の特性や程度、混ざり、ベースにある性格や生活環境、いろんな要素が重なり合って一人ひとり違った子が存在します。決して勉強してきた通りにはいません。

特に言語面の関わりが最も難しくて繊細な部分です。「言葉」と言っても声に出す言葉、頭の中で分かる言葉、伝えたい気持ちの3つがあります。頭で分かっていても声に出して言葉にしなければコミュニケーションは成り立ちません。理解してもらえないとなると、子供たちは喋るのを嫌がって、伝えたい気持ちもなくなります。また、どの段階で課題があるので支援の方法が変わって来ます。

特に注意しているのは子供の「伝えたい気持ち」を守ること。話しかけてくれる子供の中には、何を伝えようとしているのか分からない場合や、言葉になっていない場合もありますが、うんうんと頷いて話を聞いている姿勢を見せるだけでも、子供たちの気持ちは守られます。そこから心に閉じ込められた言葉が引き出されてくることを願っています。

Q3

福祉の仕事をする上で、
心がけていることはありますか?

専門的な知識を持っているのは強みですが、それに依存せず、あえて一歩引いた目線で周りの意見を聞きながら環境的な要素を取り込んでいくように心がけています。

また、完璧を求めるところも親も総崩れてしまいます。そこで、大事にしているのは「25%ルール」。やってほしいことが25%できたら褒めるというもので、遊びの中では必ず主体性を最優先にしています。



Q4

福祉の仕事に就きたいと思った
きっかけは何ですか?

理学療法士として大阪の病院で2年働いていたんですが、家庭の事情で地元田辺に帰ってくることに。そのためちょうど仕事を探し始めたのと、こちらに声をかけていただいたのが同じタイミングでした。

母が同じ法人の作業所で働いていたので、昔から福祉の現場も知っていましたし、病院で働くのは正直辟易(へきえき)していました。分割みのスケジュールで、できるだけ多くの人を担当するというような仕事はもうしたくなかった。子供は好きでしたし、自分の資格で療育に関われるならやってみたいなと思ったのがきっかけです。

以前勤めていた病院では40~50人の理学療法士がいました。ここでは僕だけ。それだけ責任も大きいですが、やりがいを感じています。おむつだった子が、関わる中でトイレに行けるようになるなど、成長の一助になれているのを感じると嬉しいです。

Q5

働く前に思っていたイメージと
現在のギャップがあれば教えてください。



今僕がしていることも、外から見ると遊んでいるように見えると思うし、元々、僕もそう思っていました。でも、資格を取ると遊びの中にリハビリの工夫が凝らされているのが分かります。音に反応してしまう子なら体幹を鍛えて、体を落ち着けて、耳から入る情報を集中できるように、という風に。当然、筋道通りには動きません。こうしたいなと思っても、もし子供がやりたくないとなったら、全てのプランを捨ててその子に合わせる中で、本来の目的に近づけるようにプランを組み直します。

相談支援専門員って どんな仕事?



いろんな価値観を
知ることができます！
楽しいです！

Q1. 相談支援専門員とはどんな仕事ですか？

澄田 障害者ご本人とご家族、生活の上で何らかの問題を抱えている方などの悩みの相談に乗り、課題の解決や希望する生活に導く仕事です。相談内容は福祉サービスを受けたいというものの他、生活上のお困りごとや仕事、人間関係、経済的な問題、余暇の過ごし方など多岐にわたります。私たちの仕事は当事者の声を聴き、受け止め、その人の立ち場で一緒にどうしていくかを考えることです。

Q2. それぞれのお仕事内容を教えてください

澄田 私の場合は、個別支援で福祉サービスを利用される方のケアプランを作成したりサービスの調整をする計画相談の分野の支援が主な仕事の1つ。そして福祉サービス以外の生活上の悩みや仕事上の人間関係や医療の問題などの悩みを聞いて、病院やハローワーク、教育関係などいろんな専門機関と連携を取りながら、その人を支えるチームを作っています。

橋本 私のいる基幹相談支援センターでは、困りごとの相談窓口だけでなく、より良い地域生活を送ることができるよう、利用者の支援に必要な資源づくりも進めています。就労・子供・地域生活・権利擁護・精神障害の5つの部会の自立支援協議会を開き、それぞれの分野で地域に足りていないものや課題を見つけてどうしたら解決できるかを模索します。障害があっても「その人らしく」地域で暮らし続けることができる地域づくりを目指しています。

Q3. 福祉の仕事をしていて辛かったことは？

橋本 身体障害・知的障害・精神障害等様々な特性に対応できる知識と経験が

必要なため対応を難しく感じることがあったり、大体の方が自分より年上なので、生意気に見られないかといったことも気になって、最初の1年は本当に緊張しました。

また人対人なので、意志の疎通ができない時も辛いです。こちらの言うことが伝わらなかったり、ちょっとした勘違いもあれば、自分の勉強不足や知識不足でうまくいかないこともあります。辞めたくなる時もあるけれど、事務所の上司や先輩に話を聞いてもらおう、少し気持ちが上向いたら、後はひたすら眠る！ そしたら翌日には元気になります。乗り越えた時はスカッとして、その度に強くなれます。

Q4. 福祉の仕事に就きたいと思ったきっかけは何ですか？

澄田 高校の進路を考える時に福祉の道を考え始めたんですが、そのきっかけはいろんなタイミングが重なってのものでした。おじいちゃんが入院した時にしばらくお世話したことや、親しい人が苦しんでいた時に何も関われなかったこと、直接ではないけれど、結果的にそれらのことがきっかけの1つのかなと思います。

大学では障害者支援のボランティアサークルに入っていたので、進路を考える時に自然に障害福祉に関わりたいと思いました。当時は相談支援専門員のことは知らなかったのですが、実際になってみるとすごく幅の広い仕事だなと感じています。

Q5. 福祉の仕事のやりがいを教えてください

橋本 やっぱり利用者さんの笑顔を見た時ですね。初めは相談もできなくてストレスを溜め込んで体調を崩していた方が、徐々に心を開いて話してくださるようになると本当に嬉しい。でもどの問題も私1人では難しく、関係機関や地域の住民の方との連携は必要。いろんな人と繋がっていることで、地域にあるいろんな課題が一つでも前に向けて動いた時は、しんどさを越えるやりがいを感じます。

一方通行じゃなく、
いろんな人と関われる
奥の深い仕事です



相談支援専門員

澄田 一志さん(33)

●実務経験／9年

●自分の仕事を一言で言うと？

「みんなの力でヒーローになる

“アンパンマン”」

橋本さんが働く事務所

社会福祉法人 和歌山県福祉事業団

有田圏域障害児者相談支援事務所 ゆい
有田圏域基幹相談支援センター あねっと

有田郡有田川町角75-1 有田川町きび保健福祉センター2F

澄田さんが働く事務所

社会福祉法人 有田つくし福祉会

有田地域生活支援センターつくし
有田郡有田川町熊井759-1



福祉のお仕事、 ここが聞きたい！

福祉の仕事をしていて、一番嬉しかったこと、辛かったことは？

福祉の仕事をしていて、一番難しいと感じたことは？

福祉の仕事をする上で、心がけていることはありますか？

福祉の仕事に就きたいと思ったきっかけは何ですか？

働く前に思っていたイメージと現在のギャップがあれば教えてください。

今回この冊子を作るにあたり、熊野高校総合学科で福祉関係を選択している5人の生徒に集まっています。福祉の現場で働く若者に質問したいことをみんなで考えてもらいました！

福祉系列を学びたい人は来てください

取材を終えて…

主任相談支援専門員
ディレクション
A・H



私は、障害福祉関係との会議で日々情報共有や課題の検討等をする仕事をしている中、「人材育成よりも人材確保」であるとの課題や、「若者から人気がない」等の現場の声をよく聞きます。「障害福祉へのネガティブな印象を取り払い、仕事の魅力や、やりがいを伝える事ができればもっと現場に活気が出るのに」との思いから今回の企画を考えました。今回、地域の各現場で働いている職員さんの、いきいきした表情や仕事に向かう姿勢、やりがいから、この仕事の魅力を知っていただき、福祉の仕事を少しでも身近に感じてもらえればと思います。

障害福祉のお仕事の取材ということで、正直なところ、もっと大変そうな話をお聞きすることになるかと思ってたら、みなさん本当に生き生きと楽しそうにお話されていて、びっくりしました！スタッフさん同士も仲良さそうで職場の雰囲気もよく、たくさんの「温かさ」に触れる取材となりました。ありがとうございました！

写真撮影
M・S



かくいう私も高校時代に福祉の進路を考えました。結局考えすぎて向いてないと判断したのですが、今回取材してみると「関心さえあればみんな向いていますよ！」とのこと。「いろんな人と接するのが好き」ぐらいで決めちゃおこがましい」と踏み留まった当時の自分と同じことを考える人に「それでいいよ！」と全力で伝えたいです。

文・インタビュー
M・H



動画制作
M・Y



今回、障害福祉の現場を取材させて頂き皆さんの笑顔と言葉の端々から伝わってくる優しさ、仕事に対するプロ意識や人間性を感じることができました。関心がある方は、気軽に相談してみてください。きっと暖かく迎え入れてくれると思います！

製作　者：和歌山県障害福祉課
作成　日：2021年3月
制　作：合同会社 志成
デ　ザ　イ　ン：ColoGraphical
動　画　制　作：kinari DESIGN
インタビュー・文：hasicco
写　真　撮　影：coamu creative

取材を通して「障害福祉」と一言で言っても、様々なお仕事があるのだと知りました。インタビューに答えてくださった若いスタッフさんは、皆さん「ありがとう」と言う言葉を大切に生き生きと働かれている印象で、頼もしいと感じました！誰かの役に立つことが好きな人は福祉のお仕事に向いてると思います。

デザイン
Y・T



<本誌に関するお問い合わせ>
和歌山県障害福祉課
〒640-8585
和歌山市小松原通一丁目1番地
TEL.073-441-2530 FAX.073-432-5567
※本誌に掲載している内容は、2021年3月現在のものです。
※本誌記事、写真、イラストの無断転載はお断りします。